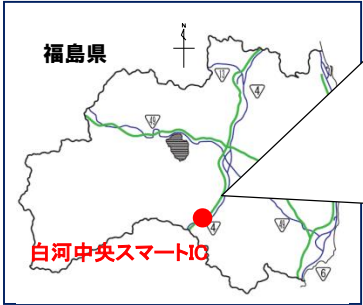
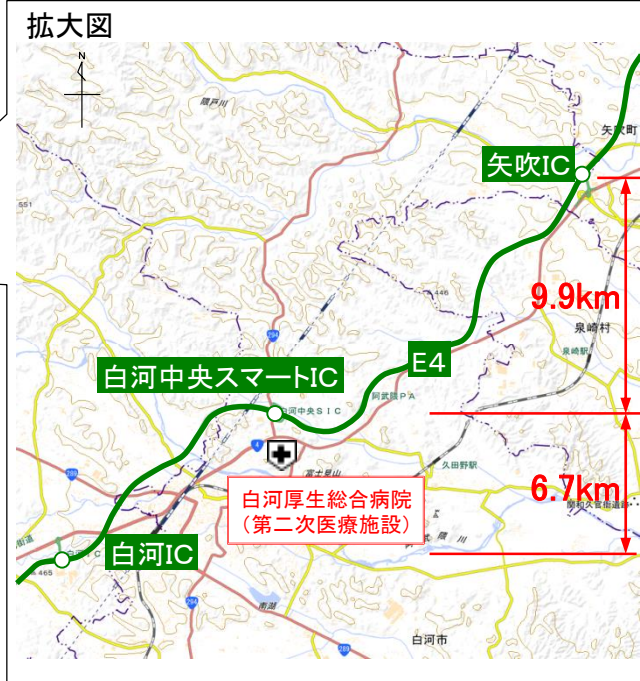


○整備前は、矢吹IC周辺地域からの高次医療施設である白河厚生総合病院等への救急医療搬送は国道4号で搬送していたが、スマートIC利用により時間が短縮され、迅速かつ安定した救急搬送が可能となった。

位置図



拡大図



▼白河厚生総合病院への救急搬送ルート



病院・消防署員の声

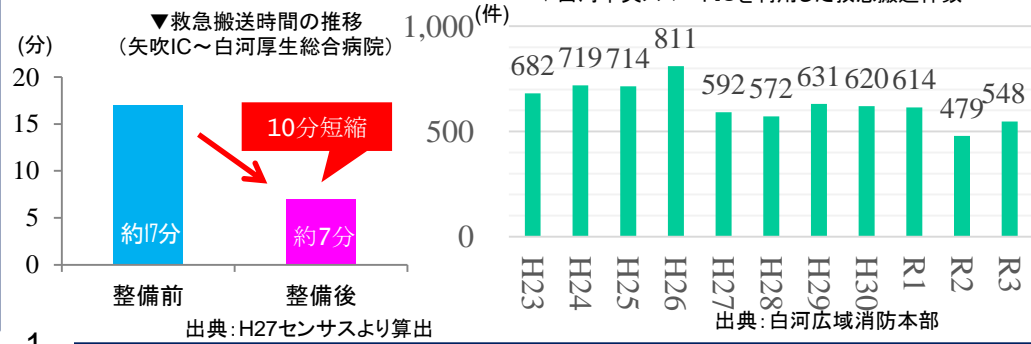
【白河厚生総合病院】

当院からの利便性があり、搬送の受け入れや転院時の迅速な受け入れが可能となった。

【白河広域消防本部】

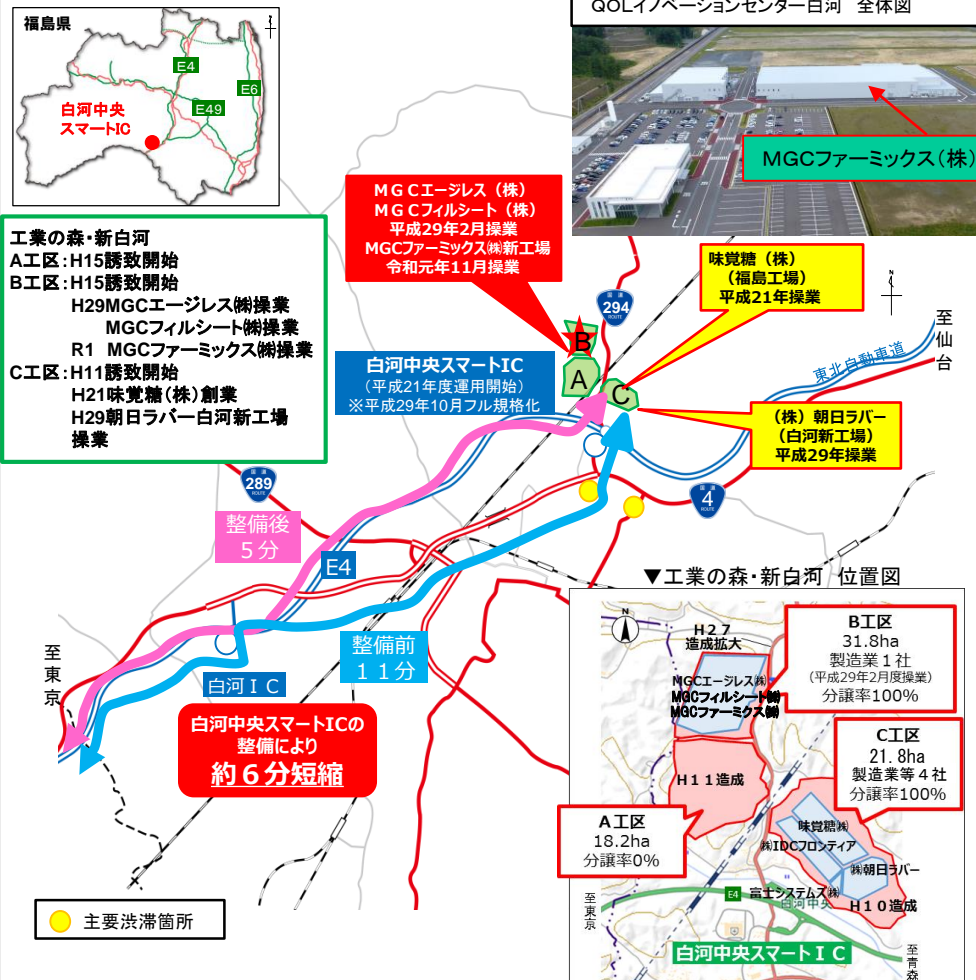
- ・重症患者搬送時及びドクターヘリ対応時に白河ICから白河中央SIC間を利用することで、早期に医療機関の管理下へ引き継ぐことが可能となっている。
- ・矢吹町内から白河市内医療機関へ救急搬送時間の短縮と安静搬送に非常に効果的であると感じている。

※令和4年度 聞き取り調査より



- 白河中央スマートIC周辺に位置する『工業の森・新白河』では、スマートIC整備後、新たな企業の立地が進み、企業数・雇用人数が増加。
- また、『工業の森・新白河』A工区にニプロファーマの進出が決定した。2026年7月に稼働開始を予定しており、新たな雇用の創出が期待される。

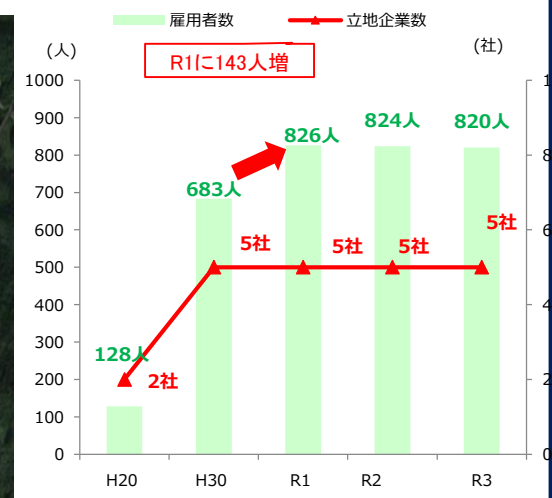
■アクセスルート図



■工業の森・新白河の分譲状況



▼工業の森・新白河の雇用者数・立地企業数



R1操業 MGCファーマイクス(株)白河工場イメージ図

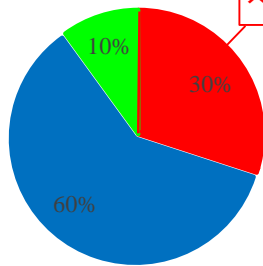
- フル規格化により、特大車を持つ周辺企業の**3割**が、利用ICを白河中央スマートICへ変更。
- 令和2年10月～令和3年9月は特大車の交通量が前年とほぼ変化がない。フル規格化した平成29年から令和3年現在までで大幅に交通量が減少しているが、コロナウイルスの影響で観光バスの出入りが減少したことが原因とみられる。
大型車については、仮置き場から中間貯蔵施設への除去土壌の搬出が令和3年12月に終了したため、令和4年度以降は減少することが見込まれる。

■白河中央スマートICフル規格化

運用開始日:平成29年10月1日
 利用時間:24時間
 利用対象車:ETCカードと車載器を搭載した全車両
 規格:長さ12メートルを超える車両についても利用可能となる。

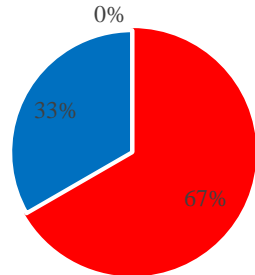
▼フル規格化後の利用ICの変化

フル規格化の前後で利用するICが変わった割合



白河中央SICへ変更

フル規格化の前後で利用するICが変わった理由



- 変わった
- 変わらない
- 高速道路を利用していない
- 車長の制限が解除されたため
- 業務の内容(行先)が変わったため
- 高速道路料金節約のため

白河中央スマートICフル規格化 アンケート結果より

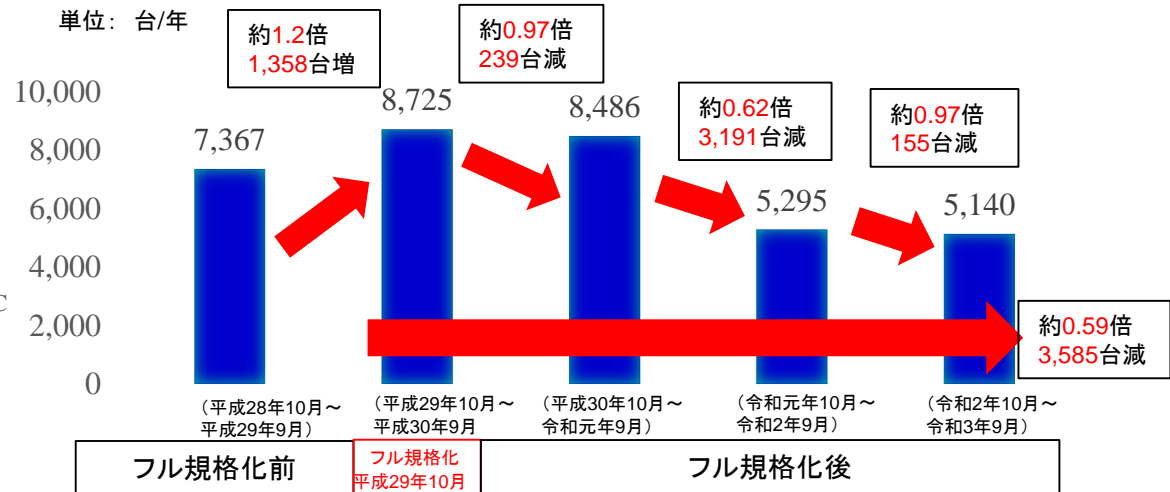
フル規格化に関する白河中央スマートIC利用企業の声



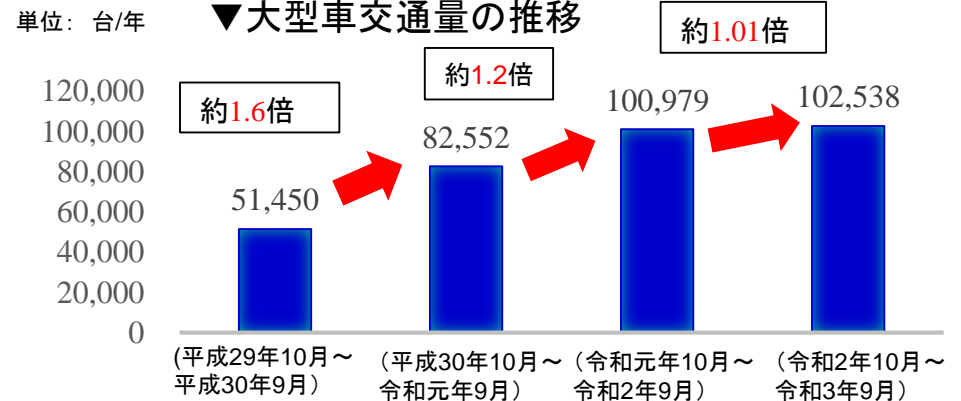
- ・目的地までの時間短縮のメリットを感じている。
- ・一般道の渋滞を回避することができるのがメリット。

白河中央スマートICフル規格化 アンケート結果より

▼フル規格化前後の特大車交通量の推移



▼大型車交通量の推移

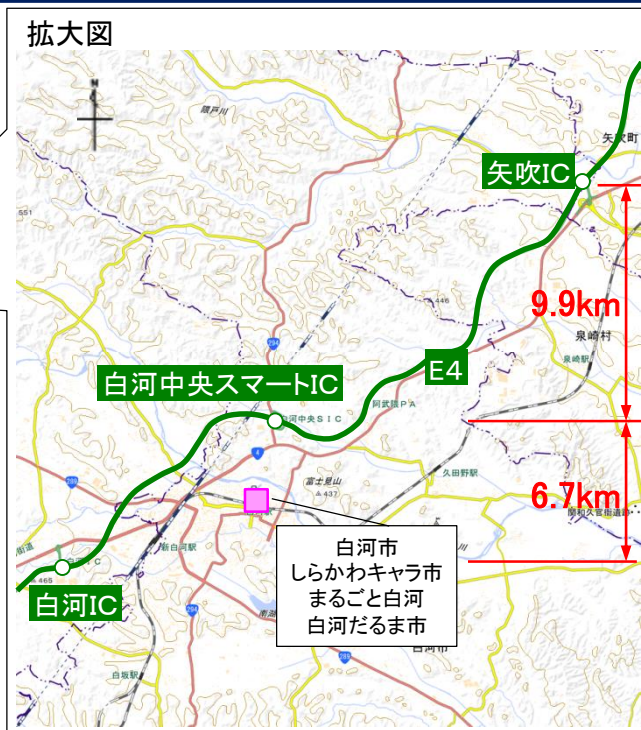


- 白河市では、観光交流人口の拡大を目指し、観光イベントを実施しているが、令和2年に引き続きイベントを自粛したため、緊急事態宣言以降、白河市全体の観光客は減少を続けている。
- 令和3年のスマートインターの1日の交通量は令和2年とほぼ変わりなし。

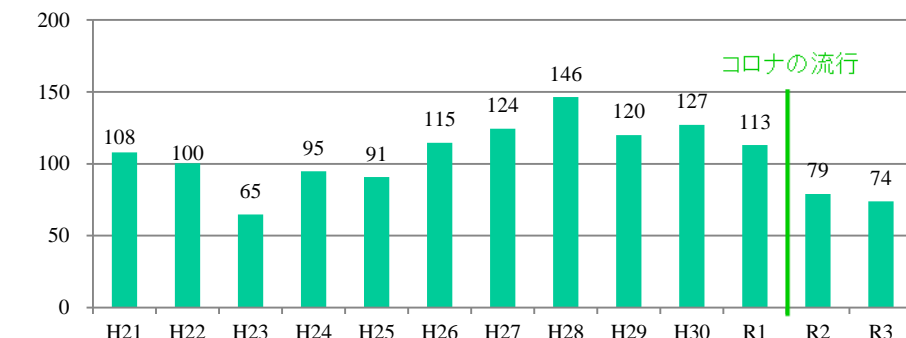
位置図



拡大図



▼白河市観光客数の推移 (万人)



出典: 白河市

南湖公園

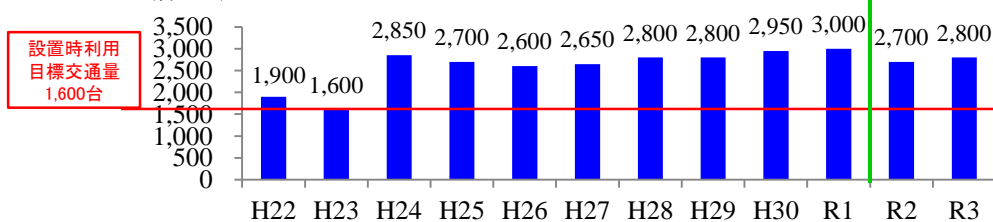


白河関の森公園



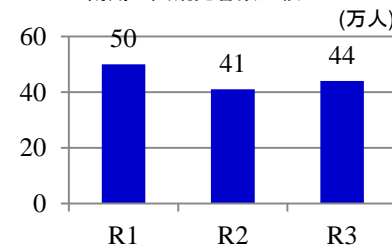
白河中央スマートICの交通量推移

(台/日)

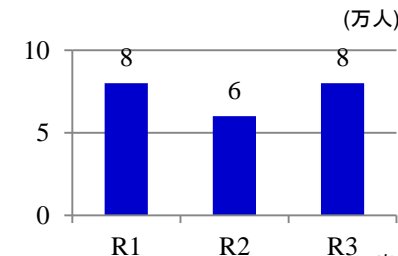


出典: NEXCO東日本

▼南湖公園観光客数比較



▼白河関の森公園観光客数比較



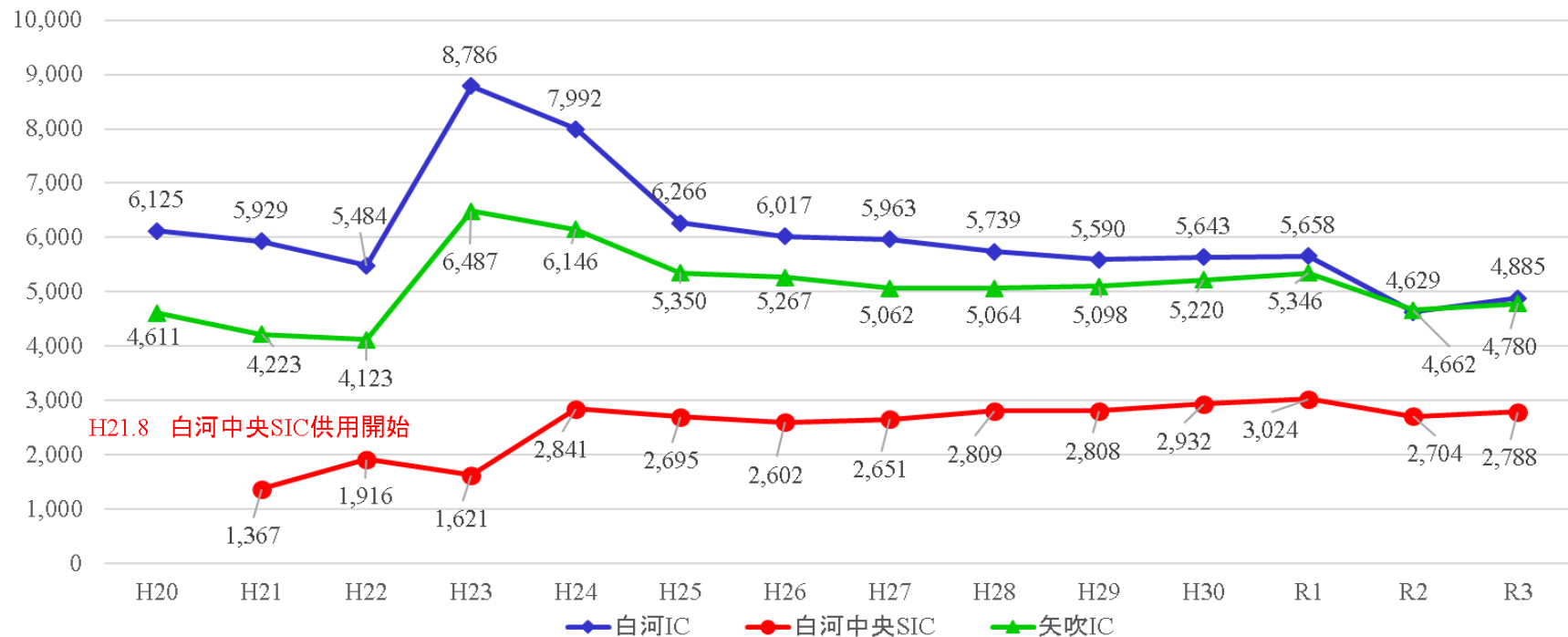
出典: 白河市

■スマートIC整備前後における出入交通量の増減

・白河中央スマートIC及び前後ICの全体交通量は、本格運用前と比較して日当たり平均約1800台増加している。

	白河IC	白河中央スマートIC	矢吹IC	合計
本格運用前（平成20年）	6,100		4,600	10,700
本格運用後（令和3年）	4,900	2,800	4,800	12,500
差	-1,200	2,800	200	1,800

■白河中央スマートIC及び前後ICの出入り交通量推移

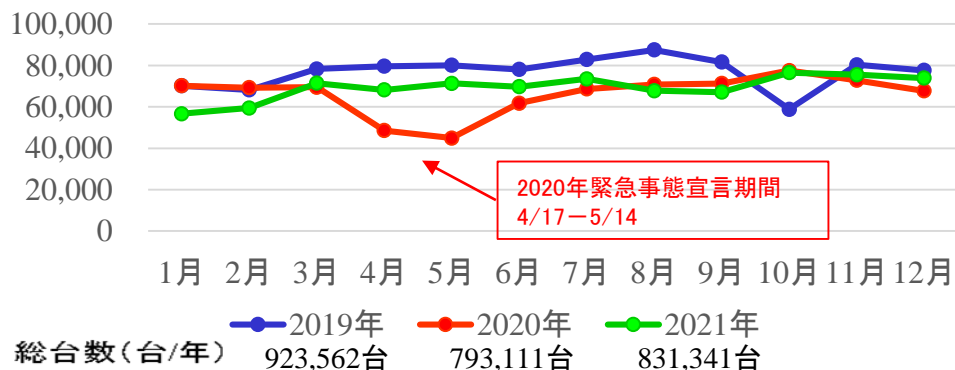


コロナ禍における白河中央スマートインターの交通状況

○コロナ禍におけるスマートインター交通量への影響を整理(コロナ前の2019年と2020年、2021年を比較)
 ○軽・普通自動車はコロナ前と比べ、1年を通して減少している。特に緊急事態宣言期間中は減少幅が大きい。中型車は、2020年の緊急事態宣言以降9月まで減少が続いたもののそれ以降は回復傾向にある。大型車はコロナの影響をほぼ受けておらず、ほぼ一年をとおして2019年の台数を上回っている。特大車の場合、緊急事態宣言以降大幅に減少し、10月からはやや回復したが依然一月あたり400台前後で推移している。

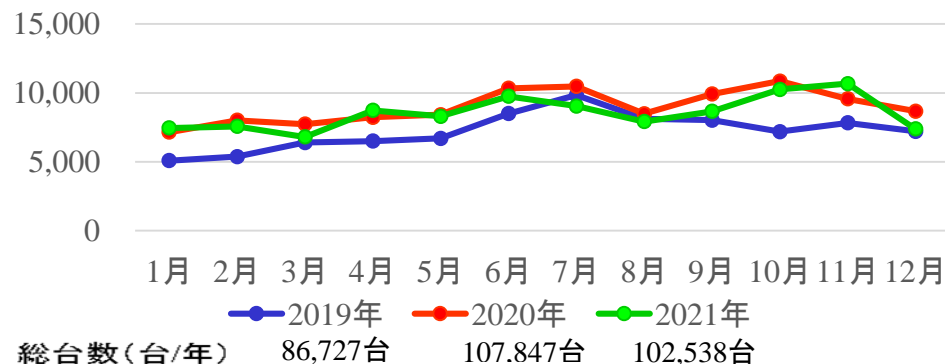
軽・普通自動車月別通行量

単位:台/月



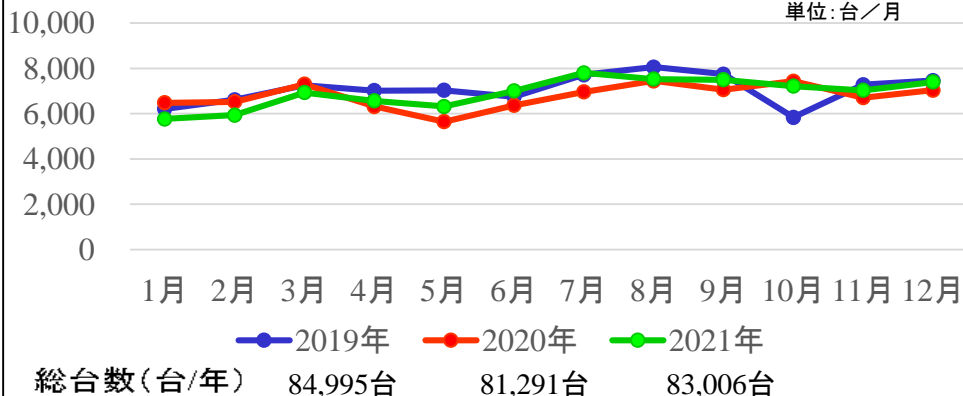
大型車月別通行量

単位:台/月



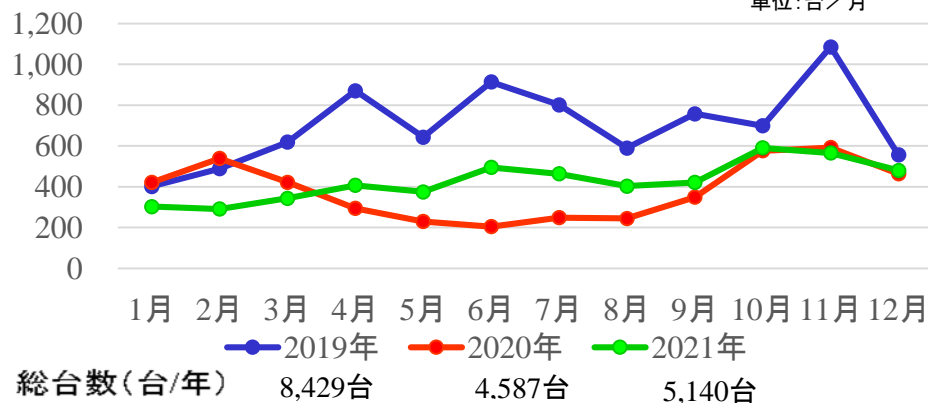
中型車月別通行量

単位:台/月



特大車月別通行量

単位:台/月



○小型車の場合、国道294号会津方面からの利用が多い。また小峰城周辺や主要地方道白河石川線沿線の双石地区が出発地凡例上位となっている。

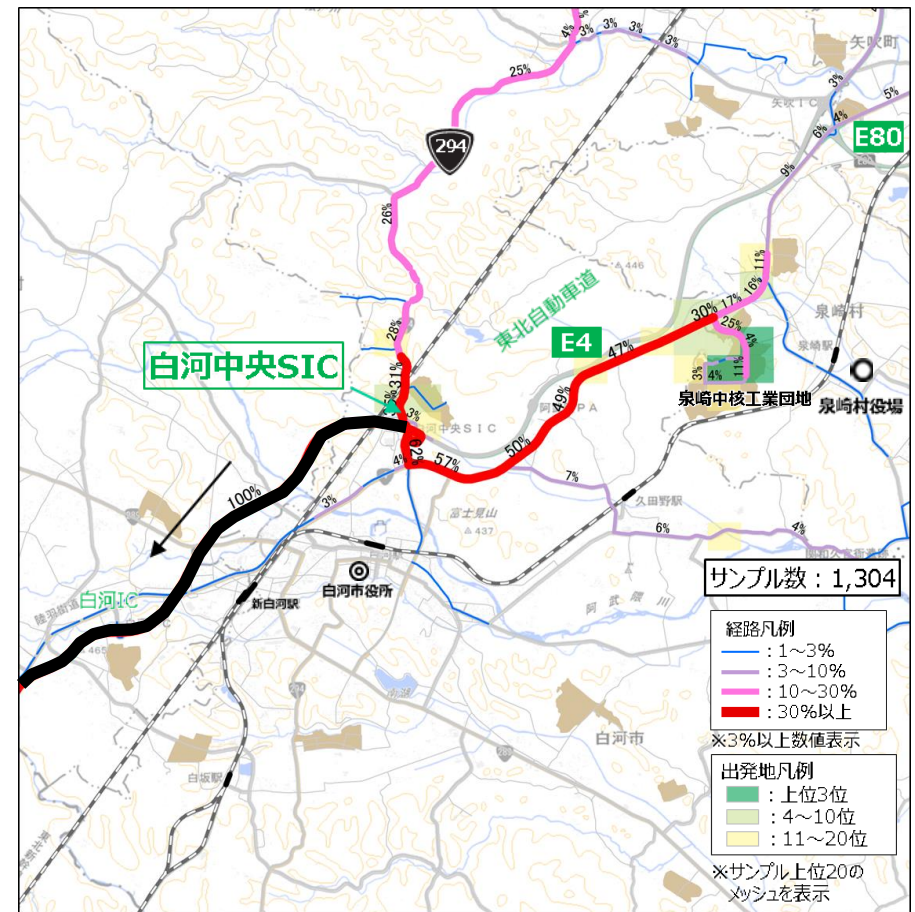
○大型車の場合、泉崎中核工業団地や工業の森・新白河など、周辺工業団地からの利用が見られる。

①SICを利用して東京方面へ向かう車両

<小型車>



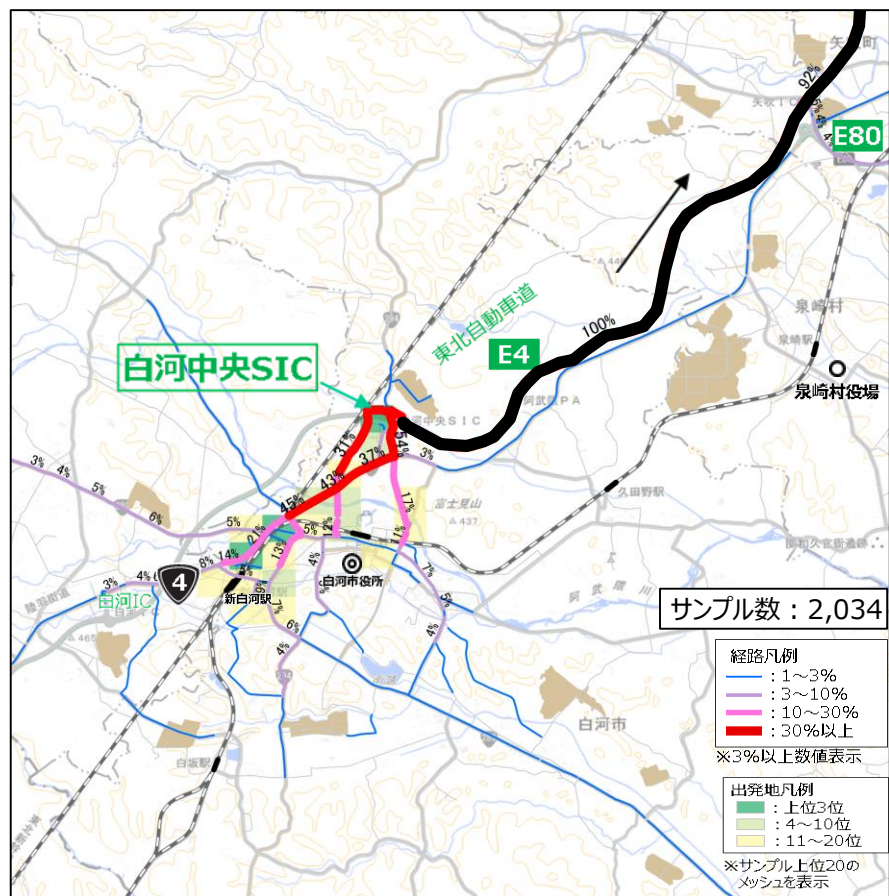
<大型車>



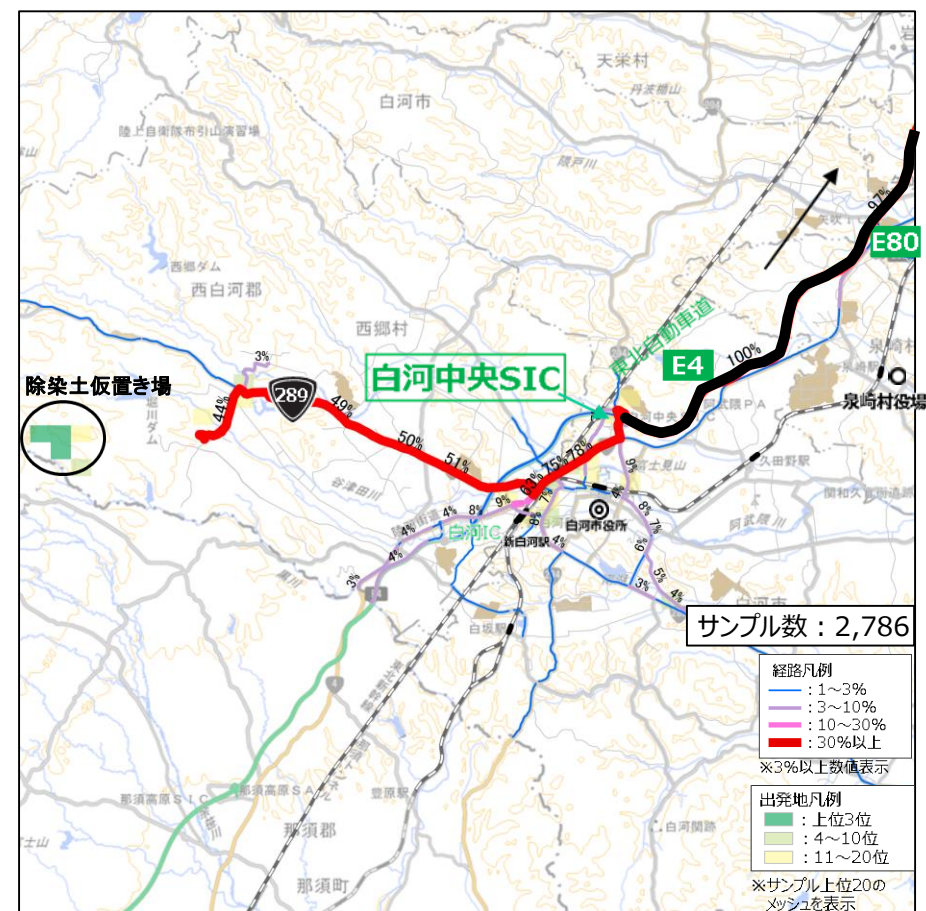
○小型車の場合、国道4号沿線からの利用が多くみられる。また、3割程度は市街地からの利用となっている。
○大型車の場合、国道289号山間部からの利用が特に多い。山間部付近には西郷村の除染土仮置き場があり中間貯蔵施設への搬出に利用されていたものと推測される。

②SICを利用して仙台方面へ向かう車両

<小型車>



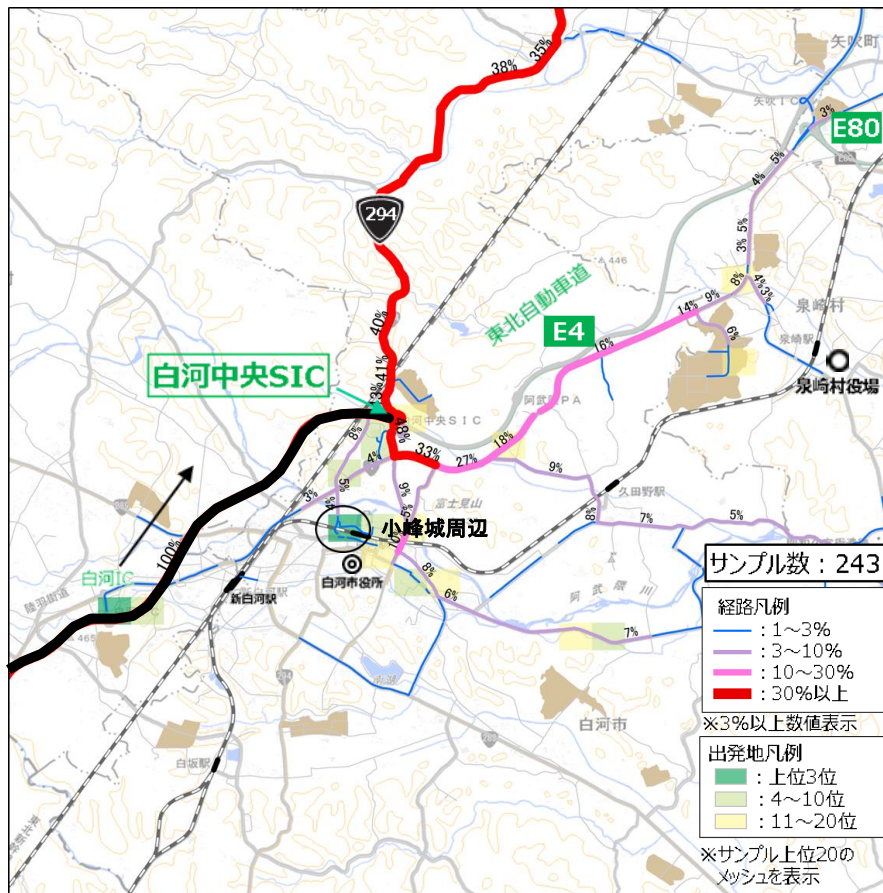
<大型車>



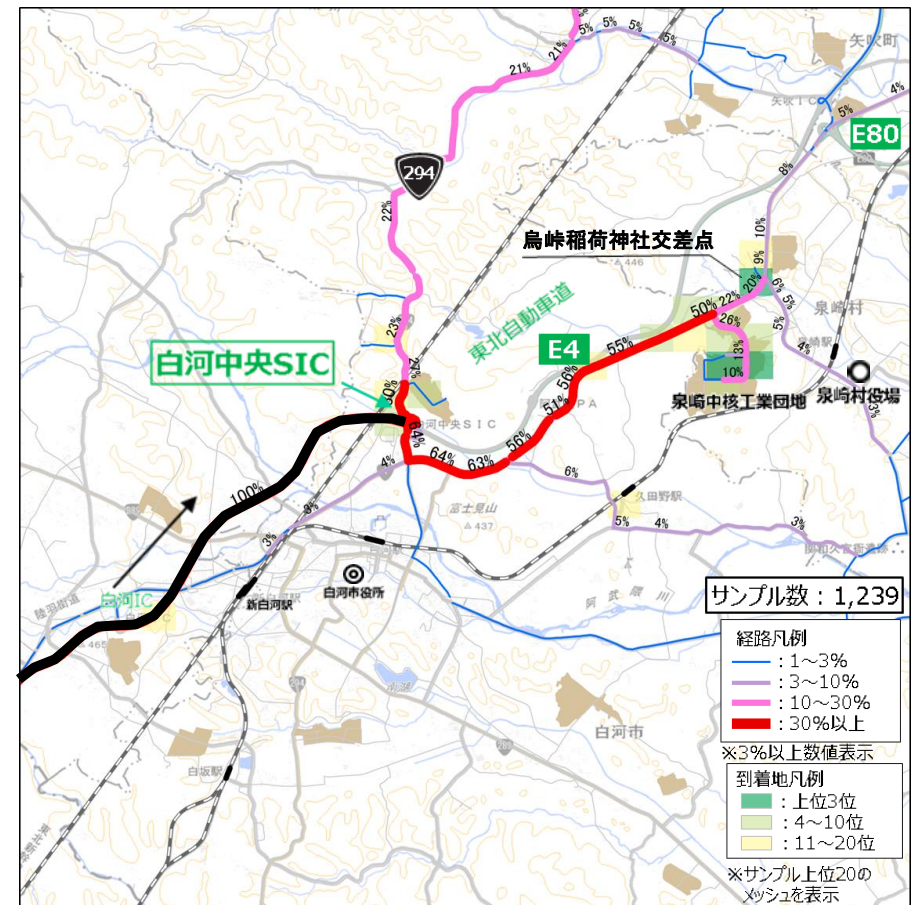
- 小型車の場合、国道294号会津方面への利用が多くみられる。また国道4号線を北上する車両や小峰城周辺へ向かう車両も多く見られる。
- 大型車の場合、泉崎中核工業団地や烏峠稻荷神社交差点付近の工場への到着が多くみられる。また2割程度が会津方面へ向かう。

③東京方面から来てSICで流出する車両

<小型車>



<大型車>

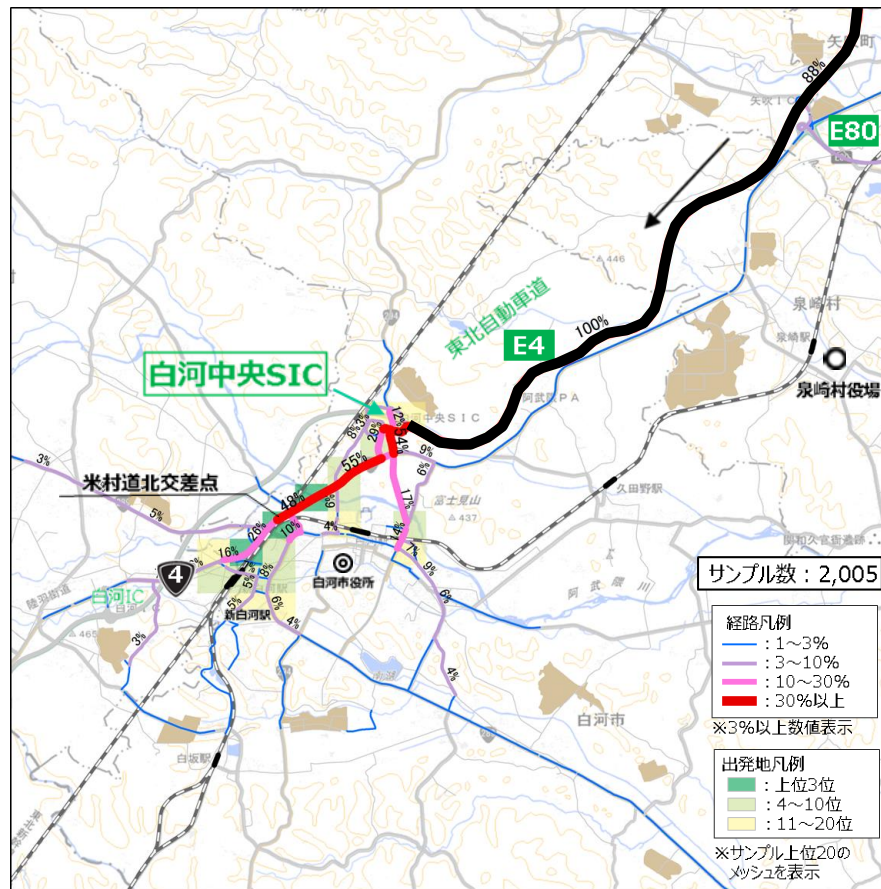


○小型車の場合、流出後に米村道北交差点付近に到達する車両が約5割を占めている。また国道4号沿線への到着が多くみられる。

○大型車の場合、国道4号を南下する車両が多い。また小峰城周辺に向かう車両や国道289号棚倉方面への流出も多く、棚倉方面を勤務地とする運送会社の利用であると推測できる。

④仙台方面から来てSICで流出する車両

<小型車>



<大型車>

